法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-08-31

博物館の領域とすみわけ ： 千葉県を事例として

阿部, 智代 / ABE, Tomoyo

(出版者 / Publisher)
法政大学地理学会
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
法政地理 / JOURNAL of THE GEOGRAPHICAL SOCIETY OF HOSEI UNIVERSITY
(巻 / Volume)
44
(開始ページ / Start Page)
55
(終了ページ / End Page)
70
(発行年 / Year)
2012-03-22
(URL)
https://doi.org/10.15002/00011642

Hosei University Repository

法　政　地　理
J. Geogr. Soc. Hosei Univ.
44, 55-70　(2012. 3)

博物館の領域とすみわけ－千葉県を事例として－

阿部 智代

最新の調査で，博物館の数が戦後初の減少を見せた．館運営が厳しい原因の１つとして，1960～90年代の博物館ブームによって博物館が乱立したことが考えられる．全国に同じ様な博物館が増えることで，館同士の競合が起こるため，相互にすみわけや連携を行う必要があることが度々指摘されてきたが，実際の現場ではそのような意識は存在するのだろうか．本稿では，全国でも特色ある県立館の設置を行ってきた千葉県を事例とし，館同士が生き残りをかけてすみわけや連携を行っている現状を探った．その結果，当初予想していたほど厳しく他館を意識しているということはなかったが，個々の館には対象とする領域があり，企画展においてすみわけを意識することがあるという声は聞かれた．今後の博物館の在り方を考えるにあたり，連携にせよすみわけにせよ，外部との関係づくりが求められていくことが考えられる．

キーワード：博物館，千葉県，対象領域，すみわけ，連携
Keywords ：museum, Chiba Prefecture, territory, compartmentalization, cooperation

Ⅰ　はじめに

戦後一貫して増え続けてきた博物館が，2008年度の調査(日本博物館協会)で初めて減少を見せた．財政難や入館者の減少で苦しい運営をしているという[1)]．冬の時代と呼ばれる博物館が，今後も厳しい立場に立たされることがうかがえる．

現在博物館の運営が厳しくなっている原因の１つは，博物館建設ブームによって博物館が乱立したことにある．県制100年などの記念事業やふるさと創生事業などにより，建設が後押しされてきたが，財政難によって運営予算が削られてきた．その結果，資料の購入や展示のリニューアルがままならず，入館者の減少でさらに予算を削られるという悪循環に陥っている．

先行研究では，似た様な博物館が増えることで，他の博物館と競合することが指摘されていた．浜田(1985a)は「自然的・文化的・社会的要素すべてが同じような条件に置かれている」地域では，「収集資料・展示内容は，おそらくどのまちでもそう差異はなく，ややもするとまったく同じような博物館がいくつもできる可能性をもっている」とし，湯浅(1994)は「地域や資料の“取り合い”」が起こると述べた．このような事態を回避するために，「地域内で近接する博物館群は，それぞれの博物館等のもつ特色を十分に発揮させるため，役割分担を明確化させ，競合する部分を見直して共有化すること」(塩野:2002)が求められているという．

博物館同士が競合するという主張の前提には，博物館に対象とする「領域」が存在するということがある．そして館数の増加によりその「領域」が脅かされ，競合が起こり得ると考えられる．湯浅(前掲)は，「地域をカバーする博物館が，相互にいかなる棲み分けとお互いを尊重した上で連携を行い得るかが問題」であると述べ，浜田(1985b)は「いずれ近い将来，すべての市町村に博物館ができる勢い」だが，その際博物館を，各市町村間で「群としていかに連携機能させてゆくかが課題である」と述べている．

このように博物館のすみわけの必要性や競合を危惧する声が度々挙がっているが，実際の現場ではそのような意識は存在するのだろうか．博物館に関する論文は，その多くが実際に博物館に勤務した，または現在勤務している学芸員による自館の活動に絡めた主張であり，事例紹介に終わっているものが少なくない．そのため対象とする地域は狭く，いくつかの館を同時に取り上げた研究は少ない[2)]．

以上の点を踏まえ，本稿ではブームを経て飽和から淘汰へと進む博物館が，生き残りをかけてす

Hosei University Repository

みわけ，または連携を行っていると思われる現状を探る．とくに博物館の目的，他館との関係性を明らかにする中で，博物館の「領域」とそこから導かれる適正配置について考えていきたい．

研究対象地域は県立館の設置方式に特色がある千葉県を選定し，すみわけの有無を探る一事例とした．研究方法としては，県内の博物館に郵送のアンケート調査[3]を行った他，各館が発行する年報・館報・ホームページ等を使って情報を収集した．

Ⅱ　博物館の概要

1　博物館の定義と歴史

博物館の定義は博物館法第２条[4]に定められており，その中で，資料の収集・保管・調査研究・展示教育は，博物館の基本的機能であるとされている．また同法では人文･自然系資料だけでなく，動植物や魚類などの生物を扱う動物園・植物園・水族館も博物館に含んでいる[5]．

第１表　日本の博物館開館数

（1871 ～ 1977 年）

総数	3289 館	（100%）
明治	118 館	（3.6%）
大正	159 館	（4.8%）
昭和戦前・戦中	354 館	（10.8%）
昭和戦後	2538 館	（77.2%）
開館年不明	120 館	（3.6%）

（伊藤，1990）より

日本では昔から，寺社や物産会などが博物館的役割を果たしてきたが，近代的博物館が現れたのは開国以降である．1949年に社会教育法が制定され，それに伴い1951年に博物館法が公布，翌年施行された．その後，高度経済成長を迎え，日本の博物館は激変の時代を迎えた（第１，２表）．

明治100年記念事業，自治体確立，置県・市制○周年記念事業等に後押しされ，各地にモニュメント的な博物館が設立された（第３表）．さらに補助金制度も導入され，これを好機と捉えて一層建設が進められた．また，経済成長による開発が著

第２表　昭和戦後博物館開館数

（1945 年 8 月～ 1977 年 12 月）

総数	2538 館	（76.9 館）
1945 ～ 49 年	65 館	（13.0 館）
1950 ～ 54 年	245 館	（49.0 館）
1955 ～ 59 年	252 館	（50.4 館）
1960 ～ 64 年	306 館	（61.2 館）
1965 ～ 69 年	524 館	（104.8 館）
1970 ～ 74 年	774 館	（154.8 館）
1975 ～ 77 年	372 館	（124.0 館）
		（年間平均開館数）

（伊藤，1990）より

第３表　博物館設立の経緯

事業名		設立時期（年）
各種記念事業	町制（村制）施行○○周年記念事業	1971 － 1995
	市制施行○○周年記念事業	1930 － 1995
	置県 100 年記念事業	1978 － 1995
	開基記念○○周年記念事業	1966 － 1993
	開道 100 年記念事業	1966 － 1970
	明治 100 年記念事業	1968 － 1983
ふるさと創生事業		1989 － 1995
自治省ふるさとづくり特別対策事業		1990 － 1993
林野庁モデル木造施設建設促進事業		1989 － 1990

（福田，1998）より

しく進行し，消失や散逸の危機にあるものを早急に保護・保存しなければならないという問題が浮上してきたことも，博物館の設置が進んだ１つの原因である．このように，博物館の数が著しく増加傾向にあった1960 ～ 90年代を「博物館（建設）ブーム」と称する．こうして，「同じような設立趣旨をもった中小の博物館が多数林立し，他の博物館との事業が競合し差別化が難しく」なっていった（後藤：1996）と思われる．一方，最近ではバブル崩壊や平成の大合併の動きに押され，縮小・閉館する博物館が出ている．このように冬の時代とも言われる博物館であるが，国立博物館の独立行政法人化，公立博物館の指定管理者制度の導入，博物館法の改正など動きもあり，博物館は時代に合わせて変わりつつある．

2　「地域博物館」と博物館の地域

各地に博物館が増えることで博物館密度が高くなり，館同士が競合してすみわけや連携が必要と

Hosei University Repository

なるとすると，博物館は一定の地域・領域を持っていると考えられる．博物館の扱う「領域」という考え方として，伊藤(1986，1990)は地域博物館という言葉を用いた．

未だ定まった定義を持たない地域博物館であるが，地域博物館の「地域」は本稿で明らかにしようとしている「領域」との関連があると思われる．

地域博物館という用語は，元は郷土博物館や地方博物館という表現であり，この違いはさほど厳密ではなかった(布谷：2003)．初めて「地域」に特別な意味を持たせて地域博物館を語ったのは，神奈川県の平塚市博物館であるという．これを理論化したのが伊藤寿朗であり，現在も地域博物館を語る上で欠かせないモデルを示している．

伊藤(1986，1990)は，博物館がどのような社会的価値の実現を目指すのかという目的の違いから，地域課題を通して地域の総合性を見出す「地域志向型」博物館，一般性や共通性を求め普遍的な価値を見出す知識養成の「中央志向型」博物館，希少性を通して意外性や特殊性に価値を置く「観光志向型」博物館に分類した．

この上で伊藤(前掲)は，地域博物館の「地域」は，「地図上の特定範囲や，中央と対比される機能上の地方」を示しているのではなく，また「地域の資料を中心としているから地域博物館」でもないとし，「地域の課題に，博物館の機能を通して，市民とともに応えていこう」とするものだと述べた．また久野(2000)は，「設立自治体の行政区域が博物館の「地域」を限定するのではなく，博物館自身が博物館の活動範囲，来館者や友の会の会員の広がりとして博物館の持つ「地域」を形成する」と主張する．倉田(1979)は設置者側の意向ではなくとも，「博物館を中心とする同心円状地域」や「交通を中心とする地域区画」から博物館地域を考える必要があると述べた．

以上のことから，博物館には分野別・時代別・地域別の，資料の収集領域・展示領域・活動領域など，何らかのサービスエリアが定められていると考えられる．ただし，それが行政域と必ずしも一致するものではない点に注意を要する．

3　千葉県の博物館

1)千葉県の博物館設置構想

千葉県の県立博物館は，「千葉県の博物館設置構想」(1968年策定，1973年補足)に基づいて設置されてきた．この構想は「千葉県方式」と呼ばれ，「県内数カ所にそれぞれの立地条件を生かした地域博物館を設置し，相互に関連を持たせながら運営しつつ，最後に中央総合博物館を設置して，県下全域に博物館の網を張りめぐらす」(加藤ほか：1999)という特色あるものであった．「千葉県の博物館設置構想」(1973)では，当時の他の県立博物館の多くが県の中央に1館のみ設置されていたのに対して，「博物館がより多くの地域住民と結びつき効率よく定着する」には，「分散方式が最良の方法である」とした．そして「県内数カ所に地域博物館と，県の中央に総合博物館，美術館とを設置」し，「全県下に広く博物館施設のネットワークを確立」させた．これにより，「県民が手近に博物館を活用できるように配慮する一方，各地域の特色を持つ各種資料をそれぞれの博物館で収集・保管・展示」していくことを目指した．

この「千葉県方式」により順次開館が進み，10館11施設が開館した[6]．その後，管理運営の見直しが図られ，県立館の統合・再編・市への移譲が進んだ[7]．

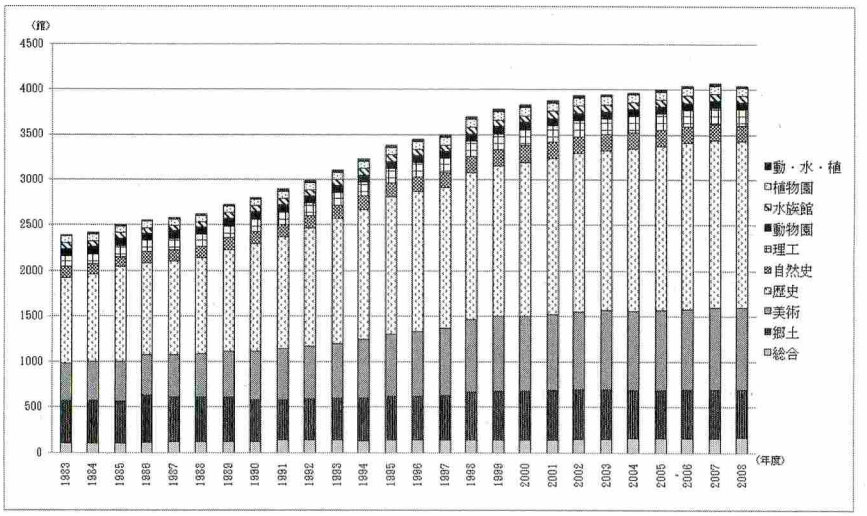
このように，千葉県は計画的に複数の県立館を配置した自治体であり，このネットワーク体制の存在が，県立館以外の博物館にも何らかの影響を及ぼしていると考えられる．例えば一市町村内に県立館と市町村立館が同居した場合，展示内容を異にする必要に迫られるのではないかと思われる．

2)千葉県の博物館の数と種類

国内の博物館は1980～90年代にかけては年に100館以上開館する年もあり，右肩上がりで増加傾向にあった(第1図)．しかし，昨今はその動きが鈍り，2008年度には戦後初めて前年度の館数を下回ることとなった．

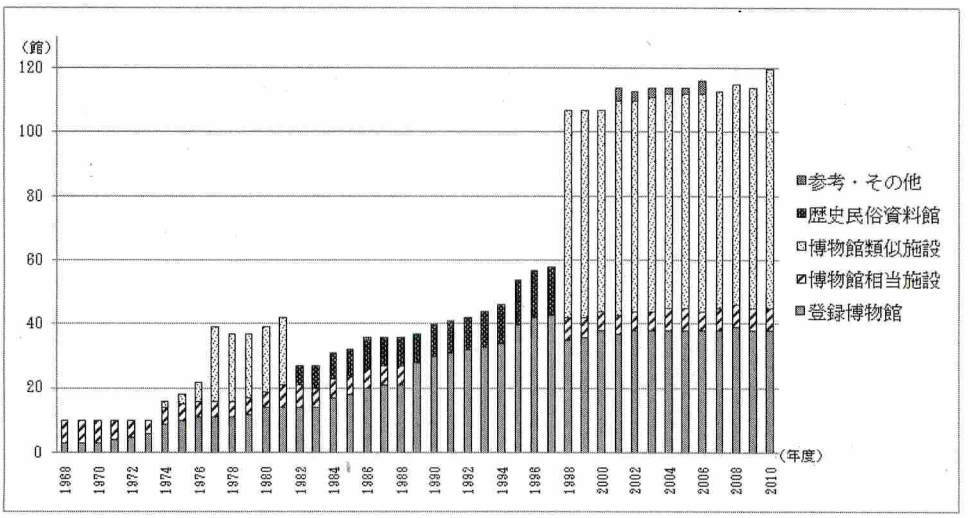
県内には120館近くの博物館があり，ここ10年ほど大きな変化は見られない(第2図)．また，調査対象である125館のうち，34館が1980年代，42

Hosei University Repository



注）館種の分類が現在と同じ形になった 1983 年度からのデータを抽出した.

第１図　全国の館種別博物館数
（日本博物館協会の博物館園数統計より筆者作成）



注）年度により集計方法が異なる。

第２図　千葉県の博物館数推移
（『千葉県教育便覧』より筆者作成）

館が90年代に開館している.

続いて館種別，すなわち博物館が扱う資料の種類別と，館が対象とする地域別の分類を試みた（第４表）[8]．地域別とは，資料の収集領域や館の目的から，その館が対象とする地域を読み取ったもので，例えば「地域」と分類した館は，資料の収集・展示領域を，市立館であれば市域内や，その市の近隣地域を対象としていることを示している.

館種別に見ると歴史系博物館が最も多く，その次が美術館で，全国的な傾向と同じである．特に多いのは「地域」を対象とする博物館であった．人物系の博物館も地域ゆかりの人物の業績を讃える

Hosei University Repository

第４表　千葉県の博物館の資料の種類

(館)	歴史	美術	人物	自然科学	動水植	専門	計
地域	56	17	13	9	1	2	98
県域	2	5	0	3	0	0	10
国内	3	5	0	2	0	2	12
世界	2	2	0	3	3	2	12
関係なし	5	13	0	7	17	10	52
計	68	42	13	24	21	16	184

注）複数計上した館もあるため，合計は実際の館数と異なる．
（アンケート結果・各館の年報等より筆者が分類した）

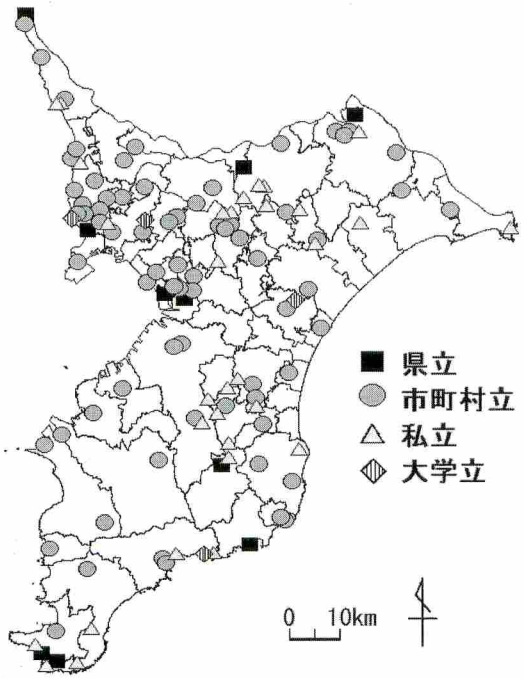
意図が強いため，全てが「地域」を対象としている．

3）千葉県の博物館の分布

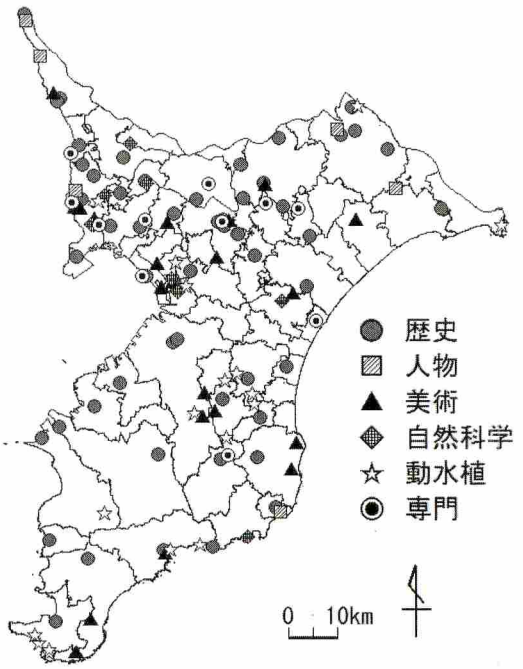
県内の博物館は全体としては，比較的分散して立地している．設置者別に見ると，県立館は県の設置構想に従い，県内にほぼ均等に分散しているのが分かる（第３図）．市町村立館は，ほとんどの市町村に１館以上立地している．大学立館は各大学の敷地内に立地しているため，目立った特徴は見られない．私立館は，人口集中地を避けて立地しているものが多く，南房総等の観光地域以外にも，茂原市・長生郡の辺りと成田市の南方に集中している．

また館種別に見ると，その立地特性がよく分かる．歴史系の博物館は全県に渡って分布している（第４図）．それに対して美術館と自然科学系の博物館は，ある程度の分散は見られるものの，千葉市と市川市といった人口集中地区に目立つ．動物園・植物園・水族館は安房地域の海岸付近や茂原市周辺に多く見られる．専門館は，多くが県の中央から北部にかけて立地している．

以上の館種別の傾向は，南関東の博物館の分布を見た浜田（1985b）の分類結果と近いものとなっている．浜田（前掲）の指摘するように，全県的に分布する市町村立館は，ほとんどが歴史系の博物館である．地域と密接な関わりをもつものを収集しようとする際，その最たるものが考古・歴史・民俗資料であるためだと思われる．一方，地域との関わりを示しにくいものとして，美術館と理工



第３図　千葉県の設立者別博物館
（『千葉県教育便覧』より筆者作成）



第４図　千葉県の館種別博物館
（第４表を参考に筆者が分類・作成）

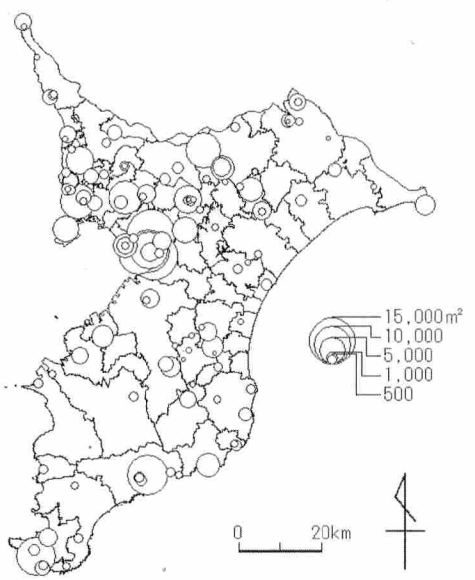
Hosei University Repository

系(筆者の分類では自然科学)を挙げているが，美術館については，その地ゆかりの美術工芸品を収集している館もあり，郷土と無関係のものとも言い切れない．このような美術工芸品は，市町村立の歴史系博物館の一角に展示されることも少なくないため，美術品を扱う博物館そのものは第４図で示したよりも多くある．

最後に，第５図で博物館の規模を延床面積で示した[9]．県立館は比較的規模が大きく，2,000m^{2}以上のものがほとんどで，最も大きいのは，千葉市の県立中央博物館である．市町村立館は大小様々な規模で設置されているが，およそ5,000m^{2}規模の市立館を有しているのは，千葉市，松戸市，浦安市，佐倉市である．とくに千葉市は，県立館と合わせて大規模な博物館が集中的に存在している[10]．私立館と大学立館は設立者の所有地に設立されることが多く，各館の目的や条件により規模は様々であった．

博物館の「領域」や適正配置を考えるにあたって，現状の分布を見てきた．ここから，次の２つのことが分かった．

まず規模が大きい市町村では，歴史系博物館の次は美術館，次は科学館，動物園というように，様々な館を次々と建設する傾向にある．これは，市町村の文化活動の推進度というシンボル的な存在として建てられ，かつ，自らの行政区域内であらゆる分野を総合的に学習できる環境を整えたいという意図があると考えられる．特に千葉市と市川市は博物館の数が多く，館種も多い．



注）房総中央鉄道館の１館はデータ欠損

第５図　千葉県の博物館の規模
(『平成22年度千葉県の博物館･文化財行政』より筆者作成)

もう１つは，比較的人口希薄地域に分布が見られた私立館についてである．南房総の海岸などに立地しているのは，浜田(1985ｂ)でいう「レジャー型」である．広大な敷地を必要とする動物園・植物園・水族館などはこのように郊外に設置されることが多い．地価の安い地域の方が土地の確保がしやすいことが１つ考えられる．一方，観光地以外の茂原市･長生郡の辺りには「レジャー型」の他，個人の趣味で収集したコレクションを公開するという性格の館が多い．また成田市の南方には財団法人立等の博物館が多く，社会貢献事業として運営している私立館がある．このような館は，設立者の自宅や所有地が設置場所として選定されるため規模はさほど大きくなく，人口が多く交通の便が良い場所に立地するとは限らない．以上のように，個人の趣味の延長や，社会貢献の一環として運営される館は，私立とはいえ採算性を重視していない場合もあると考えられる．

Ⅲ　千葉県の博物館の設立過程と役割

博物館はどのような意図・経緯で設置され，存在しているのだろうか．博物館の目的やその存在意義について，筆者が独自に実施したアンケート調査や各館の発行物を参考に明らかにする．

アンケートは2010年８～９月にかけて112館に送付した．本章の分析に用いた回答館は，公立館が59館，私立館が12館，大学立館が３館であり，多くは館の学芸員が回答した．全て自由回答である．但し，設問によっては回答をしていない館が見られたため，以下の分析では全数が異なる．

１　設立のきっかけ

最も多かった博物館設立の理由は，「収集・保

Hosei University Repository

管・保護(12館が回答)」のためである．都市化が進む中で土地整備のための発掘調査などにより考古資料等が大量に発見されると，急速に失われつつある資料や伝統文化を保護し，地域の歴史と文化を後世に伝えるための場として，博物館が選ばれたのである．他には，新旧の住民同士の「コミュニティの場として(３館)」建設したという回答もあった．

設立に至る経緯について，公立館は公共性が重視され，私立館に比較してやや自由度に制限がある．資料を市民に公開するだけではなく，その行政区域として目指すところ，誇れるところを内外に紹介する場として，博物館が選ばれている．アンケートでは具体的に，「地元出身の著名人にあやかるため(５館)」，「文化の薫り高い自治体を目指す(２館)」という回答があった．「地域の歴史・文化を伝えるため(７館)」という理由は，必ずしも公立館のみとは限らないが，公立館のほとんどがこれを理由に挙げていた．

その他，「記念事業の一環として(７館)」は，博物館を記念碑のごとく建設したことがあったと分かる．また，「寄付・寄贈により展示・公開の場が必要となった(６館)」という理由もあった．「制度を利用(２館)」は，ふるさと創生事業，歴史民俗資料館建設事業，合併特例債・合併市町村補助金事業等が挙げられていた．「外部要因(２館)」は，他の公的施設と関連して，一括整備を行う，合併による整備，県立館の移譲などである．このように公立館は，時宜を見て開館に至るケースがあるようだ．

一方私立館は，もっぱら「個人のコレクション」を「個人の思い」で公開することを目的に設立されたものが多い(６館)．企業博物館や大学博物館，寺社の博物館(宝物館)などにおいては，コレクションの公開は個人の趣味によるものだけではなく，社会貢献の一環として，所蔵する資料を公開する，という意図で開館に至る場合がある．

例えば吉澤野球博物館は，当初は東京六大学野球関連の資料を中心に公開していたが，後に地域文化の一助となるべく２階に美術展示室を併設し，設立者や財団所蔵の美術品を展示するようになった．また，和洋女子大学文化資料館や成田山新勝寺の公園内にある財団法人立の成田山霊光館と成田山書道美術館は，社会事業として学術や文化を社会へ還元することを意図して運営されている．

2　理念と目的

博物館によっては，設立のきっかけがそのまま理念や目的となっている場合もある．また博物館の基本的機能である資料の収集・保管・調査研究・展示教育をそのまま理念や目的として掲げる館も多かった．

アンケートでは，資料の「展示・活用(21館)」を通して「学び・理解(19館)」し，「伝承・普及(19館)」するという回答が多く，「郷土理解(10館)」という言葉を用いる館もあった．これは，第４表で示したように，郷土(地域)に関わりのある物を収集・展示している博物館が多いことが理由の１つであると思われる．地域の文化財，民具や地元出身・ゆかりの著名人や物事の展示などから，郷土理解や郷土愛が深められる．

一方で，これまでのように資料を見せるだけ，見に行くだけという博物館と市民との関係では終わらず，人同士の関係も重視されている．「生涯学習(６館)」や「まちづくり(６館)」の拠点として，博物館の存在をアピールする館も多い．例えば，野田市郷土博物館は，敷地内の市民会館と一体的に運営を行い，「市民のキャリアデザインの拠点として，これまでの博物館の諸機能に加えて市民交流を促進する」ことを目指している．ボランティアや友の会の活動によって，市民を巻き込んでの博物館づくり・地域づくりを目指し，地域に根ざした博物館として存在感を高めている館もある．浦安市郷土博物館のボランティアは，主に漁師町時代の浦安での生活を体験している市民で構成されており，地域文化を来館者に継承するべく活動している(町長・植田・宮崎：2004)．

3　設置場所

設置場所を考えるにあたり，市民の利用のしやすさはもちろん，収蔵スペースの確保，資料の劣

Hosei University Repository

第5表　設置場所の選定 理由

		公立	私立	大学立	計（館）
目的のため	そこが保存・公開すべき場所	5	0	0	5
	著名人等のゆかりの地	2	0	0	2
	周辺の自然環境により	3	2	0	5
利用者のため	公園内または隣接地	4	0	0	4
	類似施設に隣接または複合施設内	8	0	0	8
	行政区域の中心，公共施設群の中に設置	6	0	0	6
	観光	1	1	0	2
その他	跡地を再利用	4	0	0	4
	設置者が所有する土地	10	4	1	15
	団体・組織の敷地内	1	0	2	3
	その他	10	5	0	15
回答館（注）		49	12	3	64

（注）回答が複数項目に渡る場合は，全てを計上した．そのため回答数は回答館数の合計値と異なる．

（アンケート結果より筆者作成）

化を防ぐための環境など，考慮すべき点は少なくない．ここでは，博物館の立地を，目的・利用者・その他に分けて考えた（第5表）．

まず「目的のため」というのは，例えば，遺跡の発掘現場や偉人にゆかりの土地を保存・公開するといったことである．つまり，その場所に博物館が立地することそのものに意味や価値があるということだ．しかし，設置場所が固定化されるため，利用者には不便な場合があるという問題もある[11]．

一方，利用者のアクセスに焦点を当てた場合，「類似施設のそば」や「複合施設内」に設置するという共存方式を採用することで，施設の相互利用を促すことができる．また，運営側も一体的な整備が可能である．人の動きに合わせた立地であり，観光地や主要公共施設の傍に建てられる傾向にある．この結果，例えば観光地に建てられた博物館では，元々観光目当てに造った博物館でなくとも，観光客の利用が少なくない．

4　利用者

回答を得た博物館の大半が公立館であったためか，ターゲット層を「特に決めてない」，「全市民」とする回答が多かった（第6表）．対象者を絞っている公立館はないという回答や，市の施設であるからには市民が主な対象者であるという回答があった．このことから，特に公立館は市民を対象とすることを前提としながらも，あらゆる人々を受け入れようとしていることが分かる．中には市内よりも市外からの利用者の方が多いという館もあった[12]．その他，学校の校外学習で子どもが訪れる場合や，専門的な内容の展示に関係・関心のある人が多く訪れる場合などがある．観光地近辺では観光客が訪れることもある．

続いて利用者数の増減を博物館側が把握している原因から考える．利用者増と回答があった館は18館で，全体の29％を占めていた．その理由として，企画展の開催や展示のリニューアルがされたことの他，歴史ブームやマスメディアで取り上げられたこと，文化財に指定されたことやアクセス手段が改善されたことを挙げていた館があった．また，広報や周知活動がうまくいった場合に，市

第6表　利用者層

	ターゲット層	実際の利用者層
特に決めていない／あらゆる人々	51	8
年齢による区分	4	28
市民	12	17
市外・県外の人	0	15
学校団体	1	5
関係者・関心のある人	2	6
観光客	1	8
その他	1	2
不明（統計をとっていない）	0	8
回答館（注）	67（館）	64（館）

（注）回答が複数項目に渡る場合は，全てを計上した．そのため回答数は回答館数の合計値と異なる．

（アンケート結果より筆者作成）

Hosei University Repository

民が博物館を意識するようになったという回答もあった.

一方，利用者の減少という回答は29館で，全体の46％を占める．その理由は，企画展の減少や展示のリニューアルがされないことの他，昨今の不景気を挙げていた館があった．不景気により予算が減り，満足な活動ができないという館側の事情に加え，不景気で博物館を訪れる心の余裕を失った利用者側にも原因があるという意見もあった．また，娯楽の多様化により，他のレジャー施設と競合するという指摘もあった．専門館としての弱みを挙げる館もあったがこれは，その専門分野に興味のある入館者しか来館を促せないということである．その他有料化やアクセスの悪さ，駐車スペースの不足などが挙げられた.

最後に，増減の両方に理由として挙がっている交通の便と展示について考える．交通の便が悪い館には人は寄り付きにくいが，それさえ改善されれば，より多くの市民が利用する機会を得られるようになる．先に例に挙げた加曽利貝塚博物館は利用者数の落ちこみの原因として交通の悪さを挙げていた.

続いて展示について考えるが，まず利用者が盛んに動くのは企画展であるということが分かった．目新しい企画展の開催や展示がリニューアルされれば利用者は増えるが，いつまでも展示がリニューアルされない，企画展の回数が少ないといった場合には利用者が減る．ある館は，予算が潤沢にあったかつては，企画展を外注して「カネと力のある企画」ができたが，「今は館蔵品で展示をする企画が多くなった」と述べ，利用者は変わったものや珍しいもの，高価なものを見たがるが，外部の物を持ってきてもその自治体の「文化の向上と発展につながるとも思えない」としている．そして，「地域の資料を展示して，将来の文化の向上と発展の基礎にすること」が地域博物館の使命であり，「館蔵品を展示する機能を充実する現在の方が正しいように思える」と結んでいた.

5　博物館の役割

今回対象とした千葉県内の博物館だけでも，多様な経緯・目的を持った博物館が存在することが分かった．しかし多くの館で言及していたように，博物館は４大機能が大前提となっていることが再確認された．その中でも特に期待されているのは，資料の保管と活用である．そして展示という資料の活用にあたっては，利用者の存在を無視することはできない.

博物館を評価する際，最も単純な指標として博物館の入館者数が用いられるが，これに対して批判は少なくない．しかし，利用者のいない博物館，利用者を意識しない博物館は，博物館として存在する意味はない．資料を保管・活用する使命を担っているのであれば，その恩恵を市民が受けられるような場や機会を設けることが博物館の役割であると考える．利用者数の増減は，利用者が何に反応し，博物館に何を求めているかを表す１つの目安となり得る.

このことから博物館は，利用者の求めるものや行動範囲を考え，対象とする「領域」を明確にし，場合によっては博物館相互のすみわけ，または連携を行う必要があるのではないかと考える．今回の調査での回答館のほとんどが公立館であったことから，地域の資料を地域のために保管し，活用するという行政区域を主な対象領域と定めている館が多く見られた．市民共有の財産を，市民の代表として所有・公開する役を負うのは公立館が相応しいとは考えられるが，果たして博物館の「領域」は行政領域で区分されるものなのだろうか.

Ⅳ　展示のすみわけ

前章では博物館が何のために，誰のためにあるか，ということを考えた．本章ではそれに続き，博物館が対象とする「領域」が存在するのか，その「領域」が競合することはあるのかを見る.

1　すみわけ意識

先行研究ではすみわけの必要性や，資料や利用者の取り合いを危惧する言葉が挙げられていたが，現場ではサービスエリアや縄張り意識のようなものが存在するのだろうか．前章と同じく実施

Hosei University Repository

した調査で，すみわけ意識について回答したのは69館[13]であり，そのほとんどは公立の歴史系の博物館であった．

1)すみわけを意識している館

すみわけを意識していると回答した館の多くは，資料の種類，時代，資料が属する地域を限定することで差異化を図っていた(第7表)．例えば専門館のように，「あらかじめ主に扱う資料を限定する」，または企画展において，小規模な施設の特性を生かして「他館では扱わないような作家や作品を扱う」，と回答した私立館があった．人物を扱う博物館においては，「属人性の強い資料群を収集している」ことが差異化につながるという．また「地域を限定する」という主張は公立館ならではの意見であり，資料の収集領域・展示領域は，市立館であればその市域に関するものというように自ずと決まる．利用者を限定する意図はなくとも，やはりサービスエリアとして行政区域が意識されていると言える．それが，すみわけを意識していると答えた館においては，自館の特徴の1つであると主張できるのである．

ある館は，「郷土史博物館・史料館は『金太郎アメ』と言われることがある」ため，すみわけを意識して「独自色を出すよう努めている」と述べていた．企画展や講座等でオリジナリティを出すことや，類似の展示が他にもあることを承知の上で，情報量で違いを出すことを試みるなど，他館を意識した活動を展開する館もあることが分かった．

また，「企画展は意識する」という回答もあった．周辺の市町にも類似の郷土資料館があるという館は，普段はすみわけを意識したことはないとしながらも，「やはり企画がかぶらないかどうか等を意識する」としている．別の館も，「企画展などで内容が重なる場合には検討・相談することもある」としていた．また，借用作品を中心とした企画展を考える場合，「近県のものは対象外」にしているという館もあった．

2)すみわけを意識していない館

調査結果では「意識していない」という回答の方が多かった(第7表)．その中にも，「資料に特徴がある」，「地域を限定している」，というすみわけを意識していると回答した内容と同じものがあった．これはすみわけを意識していると回答した館と同じ意味内容を持っている．つまり，「特徴があるからこそ意識する必要がない」，「あくまでもその市区町村の博物館であるため，他館を気にする必要はない」，という主張である．ここでも，その行政区域がサービスエリアと捉えられていた．

また，差別化よりも自館の使命・目的に忠実で

第7表　すみわけ意識

		公立	私立	大学立	計(館)	回答館
意識する	資料の種類・時代を限定している／資料に特徴がある	6	0	1	7	23館
	その行政区域に関連するものに限っている	6	0	0	6	
	独自色を出そうと意識している	5	0	1	6	
	企画展は意識する（普段は意識していない）	2	1	0	3	
	その他	4	0	0	4	
	理由記述なし	1	0	0	1	
意識しない	近隣の博物館と資料の種類・時代が異なる／資料に特徴がある	8	3	0	11	46館
	その行政区域に関連するものに限っている	5	0	0	5	
	他館との差別化よりも館の使命・目的を果たすことを重視	4	1	0	5	
	近隣に博物館はない／近隣に規模・内容が似た博物館はない	5	2	0	7	
	企画展では他館と類似したものを展示することもある	2	0	0	2	
	規模が小さく，余裕がない	3	1	0	4	
	その他	8	2	0	10	
	理由記述なし	5	2	1	8	
回答館（注）		54館	12館	3館		69館

（注）回答が複数項目に渡る場合は，全てを計上した．そのため回答数は回答館数の合計値と異なる．

（アンケート結果より筆者作成）

Hosei University Repository

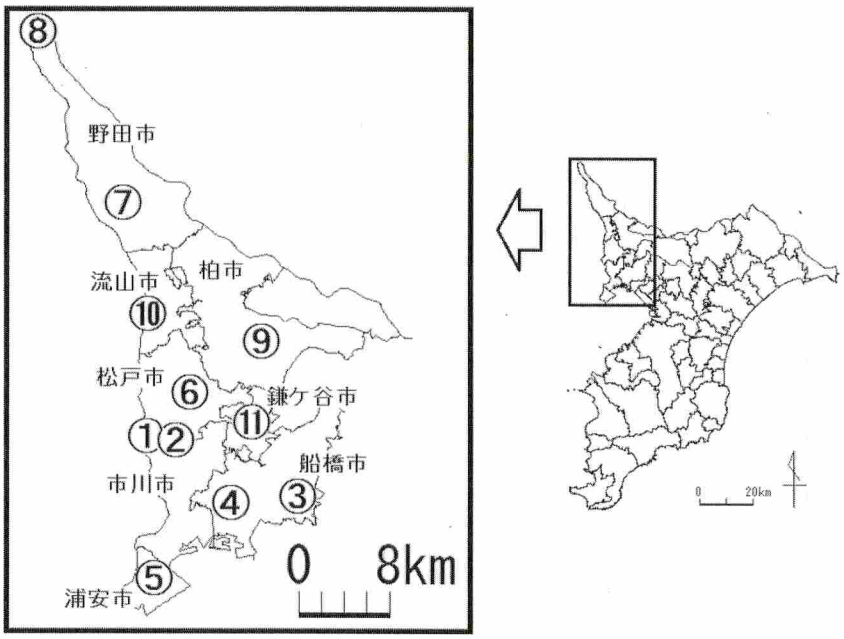
あるべきであるということで，「集客目的の為に，展示物を替えたり，周辺博物館の展示内容と重複しないように配慮したりということは，意識していない」との回答もあった．

3）すみわけ意識についての考察

調査結果を見ると，すみわけ・差別化を意識するかしないかは，周辺の博物館との関係によるのではないかと考えられる．

今回すみわけ意識はないと回答した館も，資料や地域に特徴があり，近隣に競合する館がないという優位性があるからこそ，今はすみわけを意識せずともよいようになっているのではないか．ある館は，「国立，県立の博物館が近いので，地域性をテーマにしなければ2館に来館者が流れてしまう」と危惧していた．かつて同一市内に県立館があったという市立館では，県立館が積極的に集めていた資料の収集には積極的ではなかったという．また，当初は地域唯一の県立館として設立されたという館は，「後発の館は当館との差別化を意識していると思われる」と述べていた．

このことから，博物館が増え，密度が高まるほど，他館を意識せざるをえなくなる状況は，既に意識的にせよ潜在的にせよ起こっていると言える．



注）博物館の場所を示す番号は第8表と対応している．

第6図　東葛飾地域の博物館
（『千葉県教育便覧』より筆者作成）

第8表　東葛飾地域の地域を対象とする歴史系の博物館

	館名	調査対象年（年度）
①	市立市川考古博物館	2000～2008，2010
②	市立市川歴史博物館	2000～2008，2010
③	船橋市郷土資料館	2000～2010
④	船橋市飛ノ台史跡公園博物館	2001～2010
⑤	浦安市郷土博物館	2001～2010
⑥	松戸市立博物館	2000～2010
⑦	野田市郷土博物館	2007～2010
⑧	千葉県立関宿城博物館	2000～2010
⑨	柏市郷土資料展示室	2008～2010
⑩	流山市立博物館	2000～2010
⑪	鎌ケ谷市郷土資料館	2000～2010

（一部欠損があるのは開館前であるか，まだ刊行物として情報が公開されていないためである．刊行物によらずに情報を集めた場合，その年度での企画展は一部のみとなっている館もある．）

2　東葛飾地域における企画展のすみわけ

回答の中には，普段はすみわけ意識はないものの，企画展の重複は気にするという館がいくつかあった．例えば「常設展示は，古墳時代の資料に限っている．その他の時代の資料は企画展などで公開する」という回答があった．このように，常設展ではその館のテーマに沿った展示を行うため，扱う資料の分野・時代・地域に制限が加えられる．一方，企画展ではその制限が弱められ，展示の自由度が増すと思われる．企画展はその当た

Hosei University Repository

り・外れにより年間の入館者数が増減するほど影響のあるものである．従って，展示内容の自由度が増した場合には，いよいよ成功する企画展のテーマを求めて各館が競合し，テーマのすみわけの必要性が高まるのではないか．

そこで続いて，東葛飾地域の歴史系博物館に対象を絞り，企画展におけるすみわけの有無を見ていく．一定地域の館種を限定した博物館の企画展の比較を行い，実際にどのような企画展が行われているのか，競合は起こっているのかを探った．

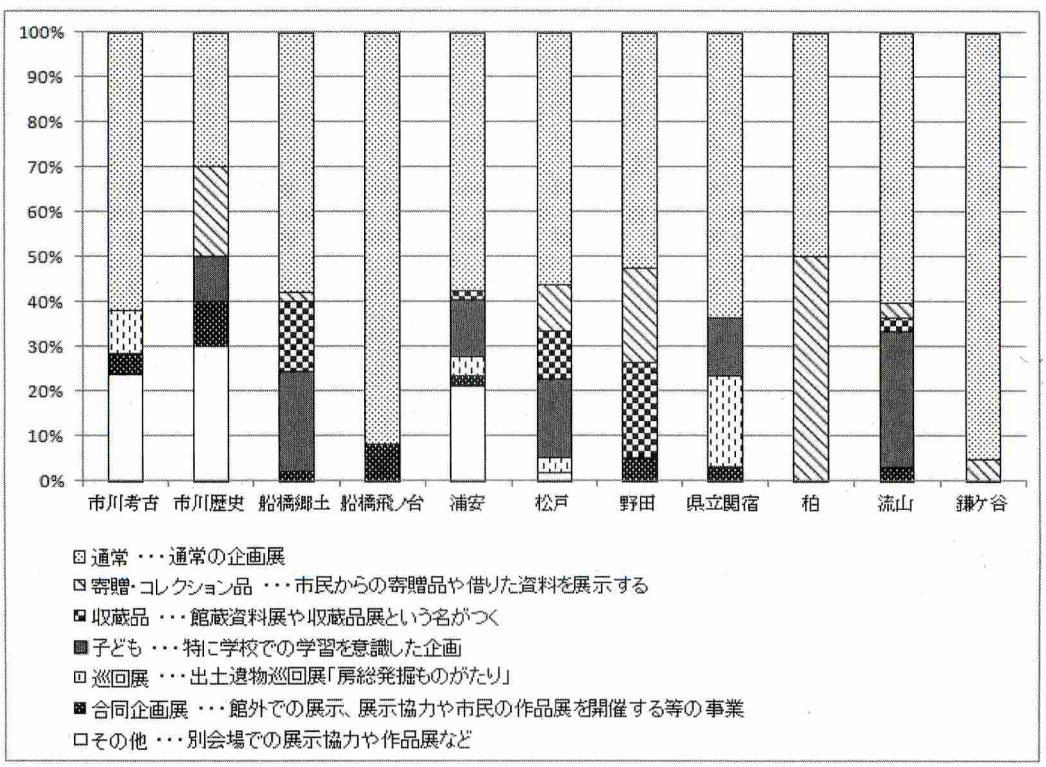
1）東葛飾地域の博物館

調査対象とした東葛飾地域は，県内でも特に人口と博物館が集中する地域の1つである．この地域の28館の中から，歴史系の資料を扱っており，かつ対象を筆者の分類による「地域」[14]に該当する11館を抽出した[15]（第8表，第6図）．比較をしやすいように，特に行政区域内を対象地域とすることが多い歴史系博物館の企画展に注目し，すみわけの有無を探った．11館は全て公立館であり，過去10年分の企画展を比較した[16]．

2）常設展の傾向

対象とする8市11館の内，市内に歴史系の博物館が2館あるのは市川市と船橋市であった．しかし，市川市の場合は堀之内貝塚に隣接して開館し，市内の遺跡から出土した資料を原始･古代～奈良･平安時代まで展示している考古博物館と，中世以降の市川を対象としている歴史博物館という役割分担がされていた．同じく船橋市も，市内の遺跡･産業・文化を紹介している郷土資料館と，縄文専門館として飛ノ台貝塚が位置する場に設置された飛ノ台史跡公園博物館のように，市内で扱う資料や内容が重複しないようになっていた．

その他の6市は，市内に他の歴史系博物館はないため，市域内に類似の活動を行うライバルはいないと考えられる．また，上述した2市と同様に，常設展において対象となっている地域は市内が主



第7図　企画展のテーマ
（各館の年報・館報等より筆者作成）

Hosei University Repository

となっていた.

このように常設展においては，資料の収集・展示領域は，いずれもその市域内やその近隣地域となっており，この領域で重複・競合することはないようである.

3）企画展の傾向

企画展のタイトルや概説からその内容を推測し，分類を試みた(第7図).

まず企画展の内容がすみわけを意識しているものかを見たところ，ほとんどの館では，市域内やその近隣に関する物事をテーマとする企画が多いと分かった．地域を対象とする企画は，企画展名にその市の名前や地域名を入れ，発掘資料やゆかりの人物，その地域の過去の風景や歴史を振り返るものが多かった．また，地域にまつわる館蔵品を使っての企画展もあった.

一方で，地域を限定しない企画展も少なくない．例えば飛ノ台史跡公園博物館は，市域を強調する企画よりは，縄文専門館という立場から，縄文時代に関する企画展を7割以上開催していた．また，柏市郷土資料展示室は年に4回開催する企画展の内，半分は市民コレクターから寄贈を受け，地域とは関連のない美術工芸品を展示していた.

また館によっては，毎年共通のテーマでいくつかの企画展を開催していた．そのうちの1つが，「子ども」と分類したもので，特に学校の校外学習での利用を意識した企画展という意図で分類した．これらは，小学生などが社会科の授業で「昔のくらしを知ろう」，「ふるさとについて知ろう」というテーマで学習する際の利用を意識している．例えば流山市立博物館では，「ちょっと昔のくらし」と題し，「流山市の100年くらい前からの歴史を理解する一助」として学校団体での利用も意識して民具を展示していた．また，浦安市郷土博物館では，夏休み企画展「もっと知りたいふるさと浦安」として，浦安に関する学習をサポートする企画を行なっていた.

さらに，いくつかの館では，千葉県内で発掘した資料を順に公開して回る巡回展に参加していた．これは，県内で実施された発掘調査により出土した考古資料の有効活用を図るため，一般県民の埋蔵文化財に対する理解と，埋蔵文化財調査機関への認識を深めることを目的としている.

合同企画展は，自館以外の博物館と合同で事業を行うものであり，ほとんどの館で市内や市外の他館と合同で企画を行なっていた．市内の館同士の合同事業では，館種が同じ，または異なる博物館それぞれが，資料や知識を持ち寄っての企画や，「市制○周年記念」として記念事業的な企画があった.

市川市は，市内の考古・歴史・自然博物館3館で「市川の歴史・民俗・自然」という企画展を開催していた[17]．また，船橋市は市制70周年記念特別展として，郷土資料館と飛ノ台史跡公園博物館で「船橋のあゆみ」展を開催していた[18].

一方，浦安市郷土博物館は，開館以来初の合同企画展を江東区中川船番所資料館と開催した[19]．江東区から浦安辺りの干潟・浅海域は，江戸時代からアオギスやハゼ釣りの名所として知られていたことから，行政区域をまたいで当時の様子を紹介する企画展となった.

また，2010年には利根運河通水120年記念合同事業として，利根運河を共通のテーマとし，野田市郷土博物館，県立関宿城博物館，流山市立博物館は合同企画展を開催した[20]．運河流域に位置するという条件が一致する中，3館がそれぞれの視点で利根運河を捉えた企画展示が同時期に行なわれた.

市外や県外の博物館との合同企画展を開催する場合，このように各館が立地する地域や条件等で共通項を見出し，企画されると考えられる.

4）企画展比較についての考察

東葛飾地域の歴史系博物館の常設展と企画展を見てきたが，次の3点のことが明らかになった.

まず，企画展のテーマは常設展で対象とする「領域」に左右されるということである．市川市や船橋市のように，市内に歴史系の博物館が2館ある場合，各館の常設展は，扱う資料の属する時代により役割分担を行っていた．企画展で扱うテーマも，その役割分担に沿うものとなっていた．逆に，企画展では常設展で扱わない資料を公開するという館もある．このことから，企画展は常設展を発展・

Hosei University Repository

応用させるための展示であると言える．常設展示から派生するものや，常設展示を補うものを扱う場が企画展であり，今回の比較からは，常設展の通史展示では触れられない市域の歴史や文化を紹介することが，企画展の役割であると分かった．

次に，常設展の「領域」を越えることにも意義があることが分かった．例えば巡回展は，必ずしもその館の「領域」にゆかりのある展示にはならないため，開催にあたって，すみわけや差別化ということは意図されない．しかし，この巡回展の意義について浦安市郷土博物館は，「市域の４分の３が埋め立てで，土砂等が堆積してできた三角州で地質的に新しく，埋蔵文化財はない（今後も発掘される可能性は限りなく低い）」からこそ，巡回展がその時代の土器や石器に親しむ機会となると述べている（アンケート・2002年度年報より）．このように，その地域とは関連のないものを扱う企画展は，市域を越えた学びの場であり，市民にとって貴重な機会となり得る．

そして，すみわけではなく連携という道もあるということも分かった．比較した11館は全て公立館であったことから，その多くがすみわけ意識の有無に関わらず，常設展は地域の歴史と向き合う内容が強かった．企画展も同様に，市域の物・人・ことをテーマとしたものが多い傾向にあった．このように，テーマが市域を越えない場合は，隣接している他の市の博物館と，企画が競合する可能性は低いと言える．しかし，企画展を常設展と同じ様な「領域」内に留めるだけでなく，合同企画展の例のように，外とのつながりを意識する機会とすることも出来ると分かった．

V　おわりに

本稿では博物館の役割を踏まえ，厳しい時代の中で，博物館が対象とする分野や地域において，すみわけ意識を持っているか，実際にすみわけがされているのかを明らかにすることを目指してきた．

まず，博物館の役割の根幹には，利用者を意識しての保管と活用があるとした．保管と活用は，一見すると相反することのように思われるが，博物館は失われつつあるもの，貴重なものを死蔵する場所では決してなく，また単なる研究所でもない．市民がその資料について興味を抱けるように活用を図り，後の世代に伝えられるよう保管するという目的のために，調査や研究が進められる場所なのである．

続いてこれを踏まえ，博物館は他の館とどのように付き合っているのかを見た．博物館の数が増えることで，資料や地域，人の取り合いが発生する可能性や，利用者を意識する必要性から，博物館が対象とする「領域」は存在すると考えた．しかし実際には，思っていたほど厳しく他館を意識しているという声は聞かれなかった．それは，今回の調査対象が図らずとも公立館が多かったことに１つの原因があるのではないかと思われる．つまり，多くの公立館は設置されている行政区域を主な対象領域として事業を展開しているため，少なくとも隣接する行政区域の博物館との競合は起こり得ないと考えている博物館が多かったのである．また，同じ行政区域内に複数館ある場合は，内部で役割分担がなされていた．

他館をライバルと意識し，激しくすみわけや競争を行うといった動きは見られなかったが，隣接する館と企画展が重複しないように調整をすることはあるという意見があったため，最後に一定地域の博物館における企画展の比較を行なった．

東葛飾地域の比較調査では，対象とした博物館が全て公立館であったことから，常設展で展示している資料や対象としている地域は，ほとんどが市域内であった．企画展もこの傾向に近いものが多かったため，企画展を調整することも少なかったが，一方で他館との合同企画展などで対象地域を広げ，市域同士や市域を越えての連携事業を行っている館も一部見られた．地域の垣根を越えた動きが少しずつでもあるということが分かった．

すみわけを強く意識して，自館の専門領域・対象地域から出ないという方法はある．しかし，合同企画展や巡回展などの他館との交流は，館同士の情報交換になるだけでなく，利用者が行き交う

Hosei University Repository

きっかけにもなり得ると考えられる．

博物館の適正配置を考える一手段としてすみわけと連携について述べてきた．博物館を建てることに意味があった時代とは変わって，昨今は同じ様な施設であれば不要と判断されてしまう．「金太郎アメ」から脱却し，「オンリーワン」の博物館となるためには，連携にせよすみわけにせよ，外部との関係づくりが求められてくると考える．そしてそこには，適正配置とは誰にとって適正であるべきか，を議論するにあたり，改正博物館法にも定められた「評価」の必要性が増していくだろう．その際には，利用者側の博物館への理解も必要となってくると思われる．

今回の調査では千葉県という一地域を事例に，すみわけの現状の一部を見るにとどまった．回答館は公立館が多く，私立館のすみわけや利用者からの視点についての言及は不十分であった．今後の課題としたい．

謝　辞

本稿は法政大学に提出した2010年度卒業論文の一部を加筆・修正したものである．

本研究のために，お忙しい中アンケート調査にご協力いただいた千葉県内の博物館関係者の皆さまに厚く御礼申し上げます．また，卒業後もご指導下さいました法政大学文学部の伊藤達也教授に深く感謝いたします．

注　記

1）朝日新聞　2010/4/18, 21, 24, 26, 5/1「文化変調シリーズ」　読売新聞　2010/8/17「博物館　攻めて生き残る」

2）例えば博物館を群として捉えた浜田(1985ｂ)や２つの博物館を比較した向井田・熊谷・広田(2003)など．

3）アンケートは休館中の１館と事前に連絡が取れなかった１館を除く112館に送付した(「平成21年版千葉県教育便覧」参考)．館種の分類や分布は，その後発行された平成22年版を参考に，新規に掲載された館を合わせて計125館を対象とした．

4）歴史，芸術，民俗，産業，自然科学等に関する資料を収集し，保管(育成を含む)し，展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し，その教養，調査研究，レクリエーション等に資するために必要な事業を行い，あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関で，当該博物館の所在する都道府県の教育委員会に備える博物館登録原簿に登録を受けたもの(下線は筆者による)．

5）博物館法の定義に従い，本稿では動物園・植物園・水族館や美術館も含めて博物館と表現する．

6）上総博物館(1971)，安房博物館(1973)，美術館(1974)，総南博物館(1975)，房総風土記の丘(1976)，大利根博物館(1979)，房総のむら(1986)，中央博物館(1989)，現代産業科学館(1994)，関宿城博物館(1995)，中央博物館分館海の博物館(1999)．(　)内開館年．

7）2004年度に房総風土記の丘と房総のむらが統合した．2006年度には総南博物館と大利根博物館がそれぞれ中央博物館の分館に再編した．2008年度に上総博物館が木更津市へ移譲され，翌2009年度には安房博物館が館山市へ移譲した．その後，上総博物館は木更津市郷土博物館金のすずとして，安房博物館は館山市立博物館分館として開館している．そのため，2010年現在，美術館，房総のむら，中央博物館，現代産業科学館，関宿城博物館と，中央博物館の分館の，海の博物館，大多喜城分館，大利根分館の５館３施設が県立博物館となっている．

8）資料の種類が複数に渡る場合は全て計上した．「歴史」は歴史系資料だけでなく，考古・民俗・民族・文字資料を含む．「人物」は地域ゆかりの人物の業績等を紹介している博物館．「自然科学」は自然史・科学・理工・産業などを含み，飼育が必要な生物は扱わない．「動水植」は動物園・水族館・植物園のことである．「専門」は特定の資料に特化して収集・展示を行っている博物館である．

9）博物館が屋内型か屋外型によって，館の規模を表す際に適切であるのが延床面積か敷地面積かは異なってくると思われるが，今回は『平成22年度千葉県の博物館・文化財行政』を参考に，延床面積で示した．

10）千葉市内の12館の内，延床面積が10,000m^{2}を越えているのは，千葉市動物公園，千葉県立中央博物館，千葉市科学館，千葉県立美術館である．

11）世界最大級の貝塚として知られる加曽利貝塚内に設置されている加曽利貝塚博物館は，利用者が減少している原因の１つとして，「立地を選べない遺跡立地型の博物館のデメリットである交通の便の悪さ(最寄りのバス停から徒歩で約15分)」を挙げている．

12）鴨川市郷土資料館(2009年度)，いすみ市郷土資料館(2009年度)，館山市立博物館(2009年度)，市川市万葉植物園，袖ヶ浦市郷土博物館(2009年度)では，利用者が市内よりも市外の方が多いという回答であった．館山市立博物館は観光客が多いと述べていた．

Hosei University Repository

13) 本節の分析に用いた回答館は，公立館が54館，私立館が12館，大学立が３館である．結果を集計する際，回答が複数項目に渡る場合は全てを計上した．
14) 第４表参照．資料の収集・展示領域を，行政区域内やその近隣としているもの．
15) 歴史系資料を扱う博物館は13館存在したが，１館は館報を見る限り定期的に企画展を開催しておらず，もう１館の大学立館は大学独自の展示が多いため，調査対象外とした．なお，今回は特定の人物や分野を専門とする館は対象としなかった．
16) 各館が発行する年報・館報・パンフレット・ホームページ・その他資料から過去10年分の企画展の情報を得た．なお，企画展ではなく特別展と称す館や，企画展と特別展の両方を使う館もあるが，本稿では常設展の対義語として，展示期間が限られる展示のことを企画展という言葉で統一して用いる．
17) 2006/3/18 ～ 5/21に開催．
18) 第１期：2007/10/30 ～ 1/6
第２期：2008/1/19 ～ 4/6
19) 2009/4/25 ～ 6/7に「江戸の武士と釣り文化～釣り指南書『何羨録』の世界～」を開催．
20) 利根運河通水120年記念合同事業として，３館は次の期間で企画展を開催した．
野田市郷土博物館：2010/10/9 ～ 12/6「利根運河三十六景～運河をめぐる，ひと・もの・こと～」
千葉県立関宿城博物館：2010/10/5 ～ 11/28「利根川舟運と利根運河」
流山市立博物館：2010/10/9 ～ 12/5「利根運河120年の記録～魅力ある土木遺産～」

参　考　文　献

伊藤寿朗(1986)：「地域博物館論―現代博物館の課題と展望―」(所収　長浜功編『現代社会教育の課題と展望』，明石書店，pp.233－296.)
伊藤寿朗(1990)：「地域博物館の思考」，歴史評論，483，pp.2－19.
加藤有次・鷹野光行・西源二郎・山田英徳・米田耕司編(1999)：『博物館経営論』，雄山閣，232p.
倉田公祐(1979)：『博物館学』，東京堂出版，280p.
後藤宏樹(1996)：「シンポジウム「博物館の現代的課題と展望」参加記」，地方史研究，46 (3)，pp.94－95.
(財)日本博物館協会：「博物館研究」より博物館園数統計.
塩野博(2002)：「地域博物館をめぐる昨今の話題」，博物館研究，37 (3)，pp.4－6.
千葉県教育庁企画管理部教育政策課編(2009)：『千葉県教育便覧』，千葉県教育委員会，215p.
千葉県教育庁企画管理部教育政策課編(2010)：『千葉県教育便覧』，千葉県教育委員会，207p.
千葉県教育庁生涯学習部文化財課(2010)：『平成22年度千葉県の博物館・文化財行政』，千葉県教育庁生涯学習部文化財課.
千葉県教育庁文化財課(1973)：『千葉県の博物館設置構想』，千葉県教育庁，64p.
布谷知夫(2003)：「日本における地域博物館という概念」，博物館学雑誌，28 (2)，pp.67－76.
浜田弘明(1985a)：「現代的視点に立った博物館を」，地理，30 (11)，pp.18－25.
浜田弘明(1985b)：「大都市圏における博物館の分布と立地－南関東を事例として－」，法政大学地理学集報，14，pp.37－54.
久野一郎(2000)：「地域博物館の「地域」と行政区域―博物館友の会が「地域」を創る―」，Museum ちば，32，pp.2－5.
福田珠己(1998)：「テクストとしての博物館－地域博物館研究に向けて－」，歴史研究，36，pp.65－83.
町長香織・植田　憲・宮崎清(2004)：「都市における地域アイデンティティーの継承と創生－千葉県浦安市における郷土博物館の調査に基づいて－」，デザイン学研究.研究発表大会概要集，51,pp.184－185.
向井田善朗・熊谷智義・広田純一(2003)：「市民団体の育成を通した地域づくりに対する博物館の役割:野田市郷土博物館と平塚市博物館の比較」，農村計画学会誌，22，pp.247－252.
湯浅治久(1994)：「地域博物館のあり方をめぐる雑感－現場から発信する一提言－」，明治大学学芸員養成課程年報，10，pp.24－31.